

徒歩で全国一周！ 村にも滞在し村民とふれあい

徒歩で日本一周に挑戦しているのは神奈川県藤沢市出身の戸高寛さん(25歳)。昨年4月に神奈川県を出発し、太平洋側を北上。北海道を周り、現在、日本海側を南下中です。8月末に村を訪れ、大島集落に4日間滞在。知人の家に宿泊しながら、花火を鑑賞し、大蛇を担ぎ、大島集落の夏祭りに参加するなど村民とふれあいました。

元々、地域おこしに興味があった戸高さんは、学生時代に何度か海外旅行を経験。その中で、日本のことを全く知らないと感じ、日本一周を決断しました。

戸高さんは「実際に歩いてみて、その地域でいろいろな伝統文化があっておもしろい国だと思った。やる前には想像していなかった出会いもたくさんあった」とこれまでの旅を振り返っていました。ゴールの予定まであと2年。戸高さんの旅はまだまだ続きます。



▲大島集落で趣味のウクレレを披露する戸高さん(写真左)



いのちを大切に 園児らが丸山大橋で花植え

9月22日、丸山大橋をフラワーロードにしようと、村内保育園児らによる花植えが行われました。これは、NPO法人ホップステップげんき(平田ゆかり代表・下関)と村の共催で、いのちの大切さを考えようと県の自殺対策推進月間に合わせ行われた事業。当日は、園児のほか、一般村民や村内施設の利用者など約100人が参加しました。

この日のために、村民や村内企業の皆さんから『元気になれるメッセージ』を寄せ書きしてもらったプランターを40個準備。園児らは、サルビアやペチュニアなど色鮮やかな花をプランターに移し替え、全長175mある丸山大橋に並べました。

主催者の平田ゆかりさんは「ここは風光明媚な場所なので、いい思い出を作り、明日からまた頑張ろうと元気になって帰ってもらえるような場所にしたい」と話していました。

瀬賀百花さん(開志国際高1年・下関)が、9月9日に松ヶ峯カントリー倶楽部(上越市)で開催された第17回新潟県女子アマチュアゴルフ選手権へ出場し、見事初優勝を飾りました。

同選手権では、前半を2アンダーで折り返すと、後半も1つスコアを伸ばし、トータル3アンダーの69でラウンドし初優勝。また、瀬賀さんは、優勝者に与えられる女子プロゴルフツアーの「2015ヨネックスレディースゴルフーナメント」への出場権も獲得しました。

瀬賀さんは「自分がゴルフ出来るのも大勢の方に支えられているからです。本当に感謝していて、今回の優勝で少し恩返しできたかなと思います。プロツアー本戦は初めてですが、楽しみながら予選通過を目標に頑張ります。応援よろしく願っています」と、意気込みを語っていました。

2015ヨネックスレディースゴルフーナメントは、平成27年6月5日から長岡市寺泊のヨネックスカントリークラブで開催される予定です。

2015

ヨネックスレディース出場決定

県女子アマチュアゴルフ 選手権で優勝!



第1回
にいがた旅館総選挙



入社6年 渡辺 栞さん（下関）
『旅館女子部門』人気投票で第1位！

このたび開催された「第1回にいがた旅館総選挙」で、ホテル泉慶（月岡温泉）に勤める渡辺栞さんが旅館女子部門で見事第1位に輝きました。にいがた旅館総選挙は、新潟の観光を盛り上げたいと県内の旅館で働く従業員にスポーツを当て、インターネット投票によりナンバー1スタッフを決める選挙のことで、県旅館ホテル組合青年部の主催。元々、人と関わることが好きだという渡辺さんは、地元高校を卒業後、ホテル泉慶に入社。入社6年目を迎えた

今は、客の出迎えや見送りのほか、宴会の仕事などフロントサービスを担当しています。勤務中に心がけていることは『笑顔』。何よりも笑顔を大切にし、子どもとは視線を合わせ会話を楽しんでいきます。渡辺さんは「優勝を聞いたときはビックリしました。周りの反応もすぐかたつたですが、お母さんが一番喜んでくれました。これからは、月1回のサーブス研修で学んでいる和装での立ち振る舞いや基本動作などを活かし、頑張ってきた」と話していました。

やさしい心が一番大切だよ
関川中学校でいじめ問題講演会

9月11日、関川中学校でいじめ問題講演会が行われ、同校全校生徒のほか、関川小の5・6年生児童、保護者など約300人が参加しました。

講演会は、村の地域人権啓発活動活性化事業の一環で、関川中の「いじめ見逃しゼロプロジェクト」に合わせて行われたもの。当日は、NPO法人ジェントルハートプロジェクト（横浜市）の小森美登里さんが講師を務めました。



小森さんは、今から16年前、当時15歳の娘・香澄さんをはじめが原因による自殺でなくした遺族。いじめで死に追い詰められた香澄さんのメッセージを伝えたいと、全国各地で講演を行っています。

小さいころから明るく元気で友達も多く、小・中学校の頃はクラスのムードメーカーだった香澄さんは、家族旅行で行ったサイパンの海が大好きな女の子でした。あこがれの吹奏楽部に入りたいと高校に入学。夢に満ちた楽しい高校生活が始まるはずでした。入学から約3か月が過ぎた頃、香澄さんの様子がおかしいことに気づきました。原因はクラスメイトであり、同じ吹奏楽部員からのいじめ。香澄さんが自ら命を絶つたのはそれから間もなくのことでした。当時のことを『生き地獄だった』と振り返る小森さんは講演の中で「人は誰でも自由の翼をもって生まれてきている。この翼をお互いに大切にしよう」と話していました。

つてほしい。自分と同じ人なんていないけど、自分と違うところも認め合うことでいじめはなくなると思う」と子どもたちに訴えました。

関川中の大島英さん（2年・上野新）は「いじめている人やいじめられている人のそばに寄り添ってあげることが大切だと感じた。いじめは絶対にあつてはならないと思う」と話していました。

講演の最後に小森さんは子どもたちにメッセージを伝えました。『やさしい心が一番大切だよ』これは、香澄さんが亡くなる4日前、夜道でお母さんに呟いた言葉です。

窓の外には 《詩：小森香澄》

窓の外には夢がある
夢のとなりには自然がある
自然の上には空がある
空の上には星がある
未来の向こうに愛がある
愛の中には心がある

この詩は、香澄さんが9歳のときに書いたもの。香澄さんの死後、この詩に曲をつけた。CDのジャケットには大好きだったサイパンの海の写真が使われている。